

# 佐賀関小児童が疑似体験

大分市社会福祉協議会は、佐賀関小学校で福祉学習講座を開きました。

## 高齢者の気持ち理解して

4本の指を輪ゴムでくくった軍手でコインを貯金箱に入れる動作を体験する児童＝大分市の佐賀関小学校



①体験で関節サポーターを身に着けたのは、高齢者のどのような特徴のためでしょう。



（9）＝顔写真＝は「体が重い状態がずっと続くと大変だろうと思った。近くに住む曾祖母への接し方が変わりそう」と話した。

参加した浜田鈴音さん

手には親指以外を輪ゴムでくくった軍手を装着。片手で紙を丸めて壁のために投げる動作では「手元が滑って紙が丸まらない」「腕が重くて持ち上げにくい」といった声が上がった。つえをついて歩く足は思うように上がらず、滑らせるよう動きにバランスを崩す児童もいて、加齢による体力低下が普段の生活に影響を与えることを体感していた。

大分市社会福祉協議会（磯崎賢治会長）は6月26日、佐賀関小学校（小川優子校長）で高齢者への接し方を児童に考えてもらう福祉学習講座を開いた。4年生18人が参加。県介護福祉士会（三浦晃史会長）の会員4人の指導で、関節サポーターや重りを身に着けて体を動かしていくくし、色付きゴーグルや耳栓をして高齢者を疑似体験した。

②色付きゴーグルや耳栓をしたのは、どうのような特徴のためでしょう。

③以上のような高齢者の特徴が分かったので、接し方を考えみよう。

(2014年7月1日朝刊10面)